

トレッキング大会報告

Marubeni LP Holding B.V.

稲里 幸亮

去年5月9日に開催された第一回トレッキング大会に続き、今年4月18日に第二回トレッキング大会が開催されましたので下記にてご報告致します。

前回の若干肌寒い秋空の下での山行とは異なり、今回も同じ時期であったにも関わらず、季節はずれの夏晴れ、チリらしいカンカン照りの太陽の下で一同爽やかな汗をかくことになりました。ご参加頂きました皆様、改めてお礼を申し上げます。



当日は、「K」 Line Chile 中山さんのガイドの下、二階大使夫妻を含む総勢46名が共に登ることとなりました。コースはチクレオ方面の北東高速道路の直ぐ東側、サンチャゴのランドマークでもあるマンケウエ山と尾根を分かち合う標高約1,365mのCerro El Carbon。サンチャゴ市内のどこからでも望むことが出来る代表的な山であること、また公共交通機関を利用して簡単に登山口へ辿り着けることから、週末はごった返す程の人気ルートなのではと思われがちですが、やはり隣のマンケウエ山と比較して知名度が落ちるせいか、隠れた優良トレッキングコースとなっております。コースは登り約2時間、下り約1時間の合計3時間。距離は往復約7km、標高差は約600mと実は東京の高尾山よりも厳しめのコースとなっております。(マメ知識:高尾山南側の尾根を登る稲荷山コースは往復6.2km、標高差約400mとなっております)。



一同は朝 10 時に Colegio Saint George 前の rotunda に集合、そこから Cerro El Carbon の頂上に向けて一步一步進み始めました。都会の中と言えど麓から見上げる山は要所々々で急勾配となっており、チリ中央部らしい細かい乾いた砂利に足を滑らせる場面が容易に想像できます。一筋縄では行かないと思いながらも儘よと一同ゆっくりと歩き出します。乾いた山肌をうねる登山道を進むにつれ、低木に遮られて見えなかったサンチャゴの街並みが徐々に明らかになってきます。日差しは強いものの、涼しい風が気持ちも良く、列の所々で会話が盛り上がります。3 合目あたりを過ぎて本山の尾根伝いのルートに出ると、振り向けば普段住んでいるあの街がまた違った形で見えてきます。



5 合目辺りの展望台に辿り着いたところでしばし休憩、ここまで登ったのか！との感動と共に写真撮影。もう半分なのか、いやまだ半分なのか、と議論が別れるところで登山再開。後半戦は勾配もきつくなり、だんだんと会話の声も少なくなります。坂が急になるにつれ足も重たくなってきますが、徐々に近づいてくる頂上を目標に一同黙々と歩を進めます。マンケウエ山頂上から分岐してくる尾根コースと合流する 9 合目にも着くと Cerro El Carbon の頂上はほんの目と鼻の先。この頂上、目算だと 100m 程にしか見えませんが、実は下から見えるのは偽の頂上。。真の頂上はさらに 100m 程先です。この事実を事前に知りながらも「すぐそこです！」とメンバーに激励を送る富井スポーツ委員長の言葉を鵜呑みにし、息を切らせながらラストスパートをかける参加者の一部から「委員長に騙された！！」と笑い声が飛び交う場面もありました。頂上手前の岩をよじ登ると前方にどこまでも広がる真っ青な空と私達の第二の故郷であるサンチャゴの大パノラマが待っております。

した。

当日は比較的空気も澄んでおり、東の Cerro El Plomo から南の Cajon del Maipo の谷口、西の海岸山脈までの眺望を楽しむことが出来ました。各自持参した弁当でワイワイと腹ごしらえをし、共にサンチャゴの代表的な山を攻略した達成感を笑顔で分かち合いながら 360 度に広がる絶景をカメラレンズと思い出に収めておりました。第一回に続き、今回のトレッキング大会もお蔭様で大成功に終わりました。

